

令和6年度 学校評価（具体的実践の成果と課題）

学校教育目標	本校教育は、宮崎県教育基本方針並びに宮崎県人権教育基本方針に基づき、確かな学力を身に付け、心豊かな人間的魅力にあふれた、社会に貢献できる「有為な人材」を育成することを目標とする。	【重点目標】～可能性を伸ばし 生徒に自信と誇りを 一人一人を大切にする指導を通して～					
学校の使命	校は「自立」「友情」「前進」に基づき、確かな学力及び規範意識を身に付けさせるとともに、生徒の適性を生かした進路実現により、地域から信頼される学校づくりに取り組む。	○確かな学力の向上 →基礎学力の定着(TKJタイムの充実)、学びに向かう姿勢の向上、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善、ICT教育の推進、少人数指導による指導の充実、資格取得の指導の充実、読書活動の推進 ○自尊感情の醸成 規範意識の確立 →マナー指導、清掃指導の充実と挨拶の励行、学校行事等を通じた自己有用感の育成、ボランティア活動や地域貢献活動の推進 各種大会への参加促進、いのちを大切にする教育や人権教育の推進、通級による指導の充実、SWPBS（高城スタンダード）の推進 ○キャリア教育の推進 →3か年間の系統的な指導の構築、企業や上級学校との連携による意識啓発、多様な進路希望への早期対応と目標達成、インターーンシップの改善充実、コミュニケーション能力の育成 ○信頼される学校づくり →家庭(PTA)・学校・同窓会との連携強化、地域との交流促進、広報活動の充実、本校志願者の確保、普通科・生活文化科の特色・魅力づくり、学校関係者評価の適切なフィードバック、教職員の矜持によるコンプライアンス意識の保持、風通しの良い、働きやすい職場環境づくり					
基本方針	<p>【めざす学校像】：生徒一人一人を大切にし、互いが尊敬し合い、支え合い、高め合う中で、確かな学力と豊かな人間性、規範意識を着実に身につけさせ、生徒の能力・適性を生かした進路を実現することにより、生徒・保護者・地域の願いに応え、信頼される魅力ある学校。</p> <p>【めざす生徒像】：校は「自立」「友情」「前進」の具現化を図り、心身ともに健康で、自己の成長・社会への貢献を目指して学び続ける、心豊かでたくましい生徒。</p> <p>【めざす職員像】：教育の専門家として、授業力や生徒指導力等の向上にむけて学び続け、生徒・保護者・地域の願いに応えるために「あつい」（熱・厚・篤）指導を行う職員。</p>						
具体的実践	達成手段	1学期	2学期	総括	成 果 (□) と 課 題 (■)	学校評議員評価	コメ ト
1 確かな学力の向上	1 基礎学力の定着 (TKJタイムの充実) 2 学びに向かう姿勢の向上 3 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善 4 ICT教育の推進 5 少人数指導による指導の充実 6 資格取得の指導の充実 7 読書活動の推進	2.4	2.6	3.0	<p>□技術検定合格率（前後期 申込者に占める合格者の割合）概ね目標達成できた。</p> <p>□パイロット教員公開授業を通して、ICT活用促進にむけた研修ができた。</p> <p>□南九州大学との連携により、保育士養成プログラムの構築に向けて取り組むことができた。</p> <p>□学年での指導を通して、全体的に授業中の学ぶ姿勢が改善できている。</p> <p>■授業中の集中力の向上に向けた取組も考えていかなければならない。</p> <p>■「基礎力診断テスト」向上率、「デジタルドリル」使用率とも目標には届かなかった。</p> <p>■「朝の読書」に取り組めない生徒への対応について、学級担任・学年との連携が必要である。</p> <p>■3年間を見通した保育士養成プログラム学習内容の体系化をすすめたい。</p>	3.0	<p>□デジタルドリルやオンライン学習の日など積極的なICT活用や研修に努めている。デジタル採点システムの試行などを通して、教育に充てる時間を確保しようとする取組は評価できる。</p> <p>□各種検定試験の対策がされており、家庭科技術検定・英検・漢検などの実績は喜ばしい成果だ。</p> <p>■インターネット使用時間の増加が懸念される中、アプリなどを活用した楽しい学習方法の導入が有益かもしれない。</p> <p>■資格取得のメリットをもっと生徒にアピールするとよい。</p>
2 自尊感情の醸成 規範意識の確立	1 マナー指導、清掃指導の充実と挨拶の励行 2 学校行事等を通じた自己有用感の育成 3 ボランティア活動や地域貢献活動の推進 4 各種大会への参加促進 5 いのちを大切にする教育や人権教育の推進 6 通級による指導の充実 7 SWPBS（高城スタンダード）の推進	2.5	2.8	3.1	<p>□学年団と協力しマナー指導を行うことで、生徒一人一人に声をかけ規範意識を持たせることができた。</p> <p>□交通委員会を中心にヘルメット着用の啓発活動を生徒が自ら行ってくれた。</p> <p>□高城スタンダードから高城ベーシックへと項目を絞り、生徒の自己有用感の育成に取り組んだ。</p> <p>□4者面談等を行い、遅刻・欠席の多い生徒への対応を行い、遅刻・欠席を減らすことができた。</p> <p>■ヘルメット着用の呼びかけを行っているが、なかなか成果が出ない。</p> <p>■人間関係の構築に問題を抱えている生徒が多く見受けられる。トラブルにつながる前に生徒会活動等を通して規範意識や豊かな心を育てる取組を検討したい。</p>	3.4	<p>□生徒会活動やボランティア活動が盛んな背景にはピアサポートや教育相談などのきめ細かな生徒対応が成果として出ていると感じる。</p> <p>□文化祭や体育祭の満足度が高いことは素晴らしい。</p> <p>■交通事故の増加が懸念される。良い交通マナーは地域から評価されることにつながるという視点からも、生徒に考えさせてほしい。</p> <p>■生徒間の意識格差や参加状況等の差が小さくなると、全体的な規範意識の向上につながるのではないか。</p>
3 キャリア教育の推進	1 3か年間の系統的な指導の構築 2 企業や上級学校との連携による意識啓発 3 多様な進路希望への早期対応と目標達成 4 インターーンシップの改善充実 5 コミュニケーション能力の育成	2.5	2.7	3.0	<p>□進路行事（プロフェッショナルとの出会い、進路探究ガイダンス、企業・郷土探究）の満足度が高い。</p> <p>□各進路行事を通して、将来の目標や夢の発見に努めさせ、生徒自身の進路意識を高めることができた。</p> <p>□家庭クラブ研究発表大会や産業教育フェア、産業教育生徒発表会など、生徒の活躍の場を設定できた。</p> <p>□進路ガイダンスなど多角的に情報を得ることで進路目標を口にする生徒も出てきた。</p> <p>■目標や夢の具体的な発見について測定することができなかった。</p> <p>■清掃活動への取り組みが十分でない生徒が一定数いるのが課題である。</p> <p>■学科の学びを活かした進路の充実にむけ、1・2年次からの学科内で進路検討をする機会を設けたい。</p>	3.4	<p>□地域の学校や企業の資源を積極的に活用したキャリア教育により生徒の意識も向上している。</p> <p>□卒業後の進路が様々な本校の特徴に合わせて、インターーンシップや進路ガイダンスが行われているところが素晴らしい。</p> <p>□目標や夢の発見から進路目標の達成につなげていくという流れで、高校生活の3年間を見通した取組ができていることは非常に良い。</p> <p>■生徒に近い年齢の社会人の話を聞かせることで、早期に進路意識を高められるのではないか。</p>
4 信頼される学校づくり	1 家庭(PTA)・学校・同窓会との連携強化 2 地域との交流促進 3 広報活動の充実 4 本校志願者の確保 5 普通科・生活文化科の特色・魅力づくり 6 学校関係者評価の適切なフィードバック 7 教職員の矜持によるコンプライアンス意識の保持 8 風通しの良い、働きやすい職場環境づくり	2.7	2.9	3.2	<p>□一日体験入学を夏に、オープンスクールを秋に実施することができた。</p> <p>□PTA役員を中心に開催された「おつかれ」は、生徒に好評で、保護者とともに充実した時間になった。</p> <p>□保護者への連絡は早めに、紙面・メールにて行った。</p> <p>□保健室に来室する生徒を教育相談部と連携して対応することができた。</p> <p>□窓口等応対について、関係各所と連携しながら滞りなく行うことができた。</p> <p>■ホームページの充実がまだ十分ではないと外部から指摘をいただいたので、内容について見直していく。</p> <p>■学校外の諸活動について、可能なものはカリキュラムに位置づけたり、生徒だけで積極的に参加できるような手立てを工夫したい。</p>	3.4	<p>□ホームページを通して学校での様子や活動がよくわかり、良いPRになっている。</p> <p>□「ならでは」の魅力を上手に発信し続けたことが、体験入学の満足度や志願者数増につながっており、今後も特色を発信してほしい。</p> <p>■「高城」という地域とより連携を深めていくと更に学校への協力や信頼が高まるのではないか。</p> <p>■高校生の柔軟な発想で参画できるように地域へ働きかけを行ってみてはどうか。</p>